
武魔学園ユフィス

ウォルヴ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

武魔学園ユフィス

【Nコード】

N1206C

【作者名】

ウォルヴ

【あらすじ】

悪の心を持った戦士は天使によって封印された。天使の志しを継ぐために、封印を守る為に。天使と人々は3つの大陸の封印の土地に学園を作った。しかし封印は今、解かれようとしている。その大事件に巻き込まれて行く主人公とその仲間の非凡な学園生活が始動する！！

くプロローグく（前書き）

知識すら殆どない作者によって書かれているため、駄文かもしれない
ません。

くプロローグ

かつて最強と謳われた1人の戦士がいた。

その男が剣を振るえば空は裂け、大地は割れるほどであった。

男は力に溺れ悪に走り、人々に恐怖と暗黒を与えた。

見かねた神々は、5人の天使を遣わせた。天使はその男の強大な力を4つに分ける事に成功する、その力の内3つをミータリア大陸、サリアルド大陸、ユフィス大陸に封印し、その3つの大陸に国を作り上げ3人の天使が封印を守る事になった。残りの1つを2人の天使が持ち帰り天界が封印する事になったのである。

これがトールマリアード時代の始まりである。

第1話：学園合格！！

今、1人の美しい少年が目覚ました。

彼は起きるや否や、玄関へと走り出した、そこでポストを確認する。ポストには3通の手紙が入っていた。

彼はその中の1通を手にとり荒く封をあけた。そして彼は1度固まり段々と目を見開き、遂には歓喜の声をあげた。

「やったー！受かった、僕はトール学園に受かったぞおー！」

その声はあまりにも大きく、周りの家々から苦情が来るのではないかと思えるほどだった。

その手紙の内容は以下のことだ。

神野 薫様

貴方のトールマリアード・ユフィス学園への入学を許可いたします。

入学手続きにしましては付属の書類に記してあります。

入学式は来月、4月になっていきますので、出席のほどをよろしく
お願い致します。云々

トールマリアード学園とは、大陸毎に設けてある大規模な施設であり、武道・魔術を身に付ける施設である。入学するには大変な努力と実力が必要と言われる。ユフィス学園では、その中でも魔術に力を入れている学校なのだ。

そして、その難しい学園に見事、受かったのが彼、神野薫であった。カオルは地元では有名な美少年であった、身長182cm、少し細めの手足、少し長めで茶色い髪、クォーターらしく右目は黒だが左目は青が少し混じったオッドアイそれが彼の魅力であった。

しかも優男に見られがちだが彼は強かった。それがまた彼が人気である理由でもあるのだ。

しかし彼はあまり親しい間柄を作ろうとはしなかった。目のせいで幼い頃には気味悪がれ、避けられてきたから、本人は今でも近寄って来る人間は物珍しさで寄ってくると思っっている。

つまり自分の非凡な容姿に気づいていないのだった。

「そうだっ！リュウ達に連絡しなきゃ」

そう大声で言い放ちカオルが通信の魔術、コミュニケーションを使おうとしたときだった。

「おいコラ！！カオルッお前は朝っぱらからそんな重たい術を使うきか？」

後ろから男の声が響きカオルが振り返るとそこには既にカオルの数少ない友人である、榊原 （なかばはらりゅうじ） 龍治と五代 （いだいしゅうへく） 雫が立っていた。リュウジは金髪を後ろで1つにまとめており、身長178cmとカオルより小さいがガッチリとした体格によりカオルより大きくみえる。性格は女好き。そしてもう1人の少女シズクは少し赤みがあった。明るい茶髪をショートカットにしており、身長は171cmで女にしてはかなり高い方だろう、顔も悪く無く性格も明るい、第一印象で誰もが活発そうだと答えそうな感じである。

「リュウにシズク！何でココに？」

カオルは不思議そうな顔をしていたが、その反面早く言いたいと言うオーラが全身から吹き出していた。

2人はそんなカオルに呆れていた。

「カオル、いいか良く聞け……」

リュウジはゆっくりとそう言ったかと思うと、いきなりカオルへと掴みかかった。

「テメエー！！人の安眠を妨害しておいて、何してるの？ニコッじゃねえよ！ぶっ飛ばすぞコラ！」

「そうよ！あんたねッ今何時だと思ってるの？朝の5時30分よ！あたし達は昨日は入学の準備で寝不足なんだよ？」

カオルは早くも本日2度目のフリーズ状態であった。何故かと言つとシズクの

「入学の準備で寝不足」と言う言葉だ。

リュウジもシズクも確かにユフィス学園を受験していた。しかし昨日から準備を始めたということは、昨日の時点で合格の通知が来ていたと言うことになる。だが2人からは何も聞かされていなかったのである。

「ちよつと待つてよ、僕何も聞いて無かったんだけど・・・」

カオルがそう訪ねると、リュウジが急に申し訳無さそうな顔で口を開いた。

「実は俺たち昨日、合格通知が来てたんだが・・・1番ハシヤぐはずのお前が何も言つてこなかったから・・・その・・・」

「落ちたと思つた訳だ」

カオルがリュウジの話を先読みし苦笑いをしながら答えた。

しかしそれはそれで良い気分では無かった。確かに言いづらいのは分かるが、タイミングを逃していつ言つつもりだったのか、もしかして何も言わずに行つてしまつつもりだったのか。そんな事を考えてしまいなんとも悲しい気持ちになったのだ。

「リュウジ、シズク・・・約束したろ？誰が落ちても受かつても恨みっこ無しだつて」

「ゴメン・・・」

「もうこんな事よしてくれよ、あと・・・合格おめでとう!!」

3人は既に微笑みを浮かべていた、いつでもそうだった、素直に謝り、素直に認める、それが彼らの友情の形だった。

そしてまた彼らは同じ道を歩き出すのだ、だが彼らはまだそれが困難な道である事はまだ知らないのであった。

余談であるが、彼らはこのあと地域住民にこつてりしぼられたという。

第1話：学園合格！！（後書き）

スイマセン既に駄文です・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1206c/>

武魔学園ユフィス

2010年10月9日00時28分発行